

(第6条関係)

事業概要書

事業名	松戸の農業サポート・ 農業ボランティア養成事業
団体名	松戸農業サポート協議会 ボランティア 部会 野良の会

1. 取り組もうとする課題

(取り組もうとする課題について、その現状や背景なども含めて明確に記載して下さい。)

- 松戸市内の農業概況 (出典；平成22年度農業センサス・松戸市HPより)
 - 農家戸数 平成17年 729戸 ⇒平成22年 649戸 89%
 - 中核農家 (1.0ha以上耕作) 平成17年 239戸 ⇒平成22年 200戸 83%
 - 耕地面積 平成17年 685ha (果樹 89、田 113、畑 483)
⇒平成22年 630ha (78、115、437) 92% (88%、100%、90%)
 - 農業従事者 平成17年 2287 (女子 1105、男子 1182)
⇒平成22年 1950 (女子 935、男子 1015) 85% (85%、86%)
 - 耕作放棄地 平成17年 対耕地面積比 2.5% ⇒平成22年 3.1%
- 今後、農家戸数の減少、耕地面積の減少、耕作放棄地の増加はより強まっていくと予想される。
- しかしながら、市民の中には土に触れたい、農作業をしたい、手伝ってみたい人が多くおられるのではと予想する。
- 松戸市は大都市近郊型の町として、シニア層の増加が顕著だが、これらの人々を農業ボランティアに取込む事で、土に触れる仲間づくりを促進し、生き活きと生活するシニア層が増えることを期待したい。
- 人手不足が益々懸念される農家と、土に触れてみたいと考える市民の両者を結び付ける事によって、農家は農作業のサポートを受け、市民は農をサポートする楽しみの中から仲間づくりや新しいコミュニティ形成につながる。そんな仕組みがあれば両者に有益だと考える。
- この仕組みは農家と市民との間での強いコミュニティ形成が期待できるので市民の農業に対する理解が進み、地産地消を考え、地元の農業を継承する意義を共有して行く事につながる。

2. 事業の目標

(事業に取り組む上で、どれだけのことを達成したいのか、その目標を記載して下さい。)

※事業の成果目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載して下さい。

① ボランティア員数、受入れ農家数

	平成25年	26年	27年
ボランティア員数	40	55	70
受入れ農家数	10	15	20

数字の根拠；先進地は受入れ農家の3倍の要員をもって対応としている。

私たちは 過去1年の実績をもとに条件を厳しく考え 3.5倍とした。

② 受入れ農家の作付面積の増加

	平成 25 年	26 年	27 年
受入れ農家戸数	10	15	20
作付面積	10ha	15ha	20ha
ボランティア導入後	11ha	16.5ha	22ha

数字の根拠；受入れ農家の作付面積はボランティア導入で平年より 10%拡大すると考えた。
その拡大面積が耕作放棄地の阻止につながると想定した。

3. 事業内容

(どのような課題の解決につながっていくのかが、わかるように事業内容を記載して下さい。)

☆仕組みの定着性を図る

- ① 農業ボランティアについての周知・広報活動
- ② ボランティアの定期的な募集・養成・配置
- ③ 受入れ農家の募集
- ④ 農家とボランティアのマッチング（マッチング数の安定性、確実性）
- ⑤ ボランティアの安定した派遣と確実な派遣の実現（将来はこれに弾力性も持たしたい）

☆仕組みの継続性の強化策を具現化

- ①ボランティアの方の士気を鼓舞・維持するために、会と会員のための農園づくり
- ②農家の管理補助をイメージできるスキルアップ
- ③ボランティアドキュメント映像制作とイベントでの活用
- ④他の組織（生涯大学など）と連動・コラボ体制

・想定されるスケジュール(事業内容について具体的な取り組みを下記のとおり記載して下さい。)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4～6月	① 春のボランティア募集 ② 春期ボランティア養成講座 ③ 農業講演会	① 広報。ミニコミ紙、ポスター ② 農業の実際；現地研修 ボランティア希望者 ③ 農業関連・医療
7～9月	① ボランティア研修会 ② 受入れ農家募集	① 関連機関と連携、農とボランティアを考える。 ② ボランティアの役割の周知
10月～12月	① 秋のボランティア募集 ② 秋期ボランティア養成講座 ③ 収穫祭でPR	① 広報、ミニコミ紙、ポスター ② 農業の実際；現地研修 ボランティア希望者 ③ 農家と協働・21世紀の森
1月～3月	① 団体PR	① 見本市
通年	◎毎月マッチング	① 毎月 20 日 ボランティア活動希望日 申告 ② 農家 24 日 受入れ要望日 申告 25 日 マッチング ③ 28 日 翌月の作業日連絡

4. 協働の必要性と効果

(なぜ、この事業を団体単独で取り組むよりも、市との協働で進めることが必要なのか？
また、協働による取り組みが団体、行政（市）にもたらす効果を記載して下さい。)

- ① 会の事業に対しての信用が出来る。
- ② ボランティア・農家の応募者の双方に信頼と安心感をもってもらえる。
- ③ 講習会などの指導者養成に大きなバックアップとなる。
・初年度事業として夏季の暑さ対策の研修として熱中症を取り上げたが、スムーズに講師選定が出来た。
- ④ 行政に馴染みにくいマッチング業務を委託できる。
- ⑤ 農業についての理解度をあげる窓口になる。
- ⑥ 農業の保全について、行政・農業機関（JA）・民間と三者一体となった活動が可能になる。

5. 事業実施の役割分担

・団体が取り組むこと（提案者が、どのような「資源」や「専門性」などの「強み」を生かしてこの事業を実施するのかについても記載して下さい。)

- ① ボランティアと受入れ農家の募集
- ② ボランティアの養成
- ③ ボランティアと農家のマッチング
- ④ ボランティアの派遣・調整
- ⑤ 民間側から、この活動の有意義さがアピールできる。

・市側に期待すること（市の役割、想定する事業担当課を記載して下さい。)

- ① 事業担当課；農政課
- ② この仕組みへの信頼性と安定性に大きな信用が出来る。
- ③ ボランティア・農家募集にかかわるバックアップが可能になる。
- ④ この仕組みの継続性が今後最大の懸案だが、行政・農業組織・民間の三者一体の体制は大きな基盤である。

6. 将来の展望

(このモデル事業で得られた成果を活用し、将来どのような展開を考えているのかを記載して下さい。)

- ① この仕組みは現時点で「定着性」を求めた活動であるが、今後は「継続性」を重視した仕組みづくりが急がれる。

例えば、ボランティアの農業に対する意欲を共有するために、会が管理する圃場を有しボランティア個人に周年管理を任せられる体制（会の管理する共同農園など）を作る。

- ② 市内のイロイロな組織（例；生涯大学、千葉大、聖徳大のボランティア部門など）と連携コラボ体制を作る。
- ③ ボランティア活動を映像化しておくことで、HPやSNS利用でより周知徹底を図りたい。
（イベント時にも利用）
- ④ それらの上でこの仕組みが自立し支援体制がより拡大・成長していく方策を考慮する。

例；果樹、水稻を含む複合的農家を会員に。

通年型研修体制とそこからのボランティア供給体制づくり

行政及びJAとの枠組みにこの支援体制を組み込む。・・・等

以 上

(第6条関係)

事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	労力換算額	¥ 313,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	野良の会拠出金	¥ 30,000	雑費等を充当
	自己資金の合計額 (b①)	¥ 30,000	
	事業費収入合計額 (b②)	¥ 0	
	団体より拠出金 (対象外経費分) (b③)	¥ 91,000	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入等の合計額 (C)=(b①+b②)+b③	¥ 121,000	
	市 協働事業負担金 (D)	¥ 270,000	
合計額(E)=(C+D)		¥ 391,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	謝礼金	¥ 30,000	農業関連講演 20,000円×1回+10,000円×1回
	印刷費	¥ 60,000	ボランティアハンドブック作成 200部×200円 ポスター 100部×20円 チラシ 2,000枚×9円
	のぼり製作費	¥ 60,000	のぼり+ポール=3000円×20組
	PR用映像制作費	¥ 40,000	DVD製作費30,000円 (撮影経費+DVD製作) +10枚×1000円
	消耗品	¥ 40,000	紙、インク、プリント代
	使用料	¥ 50,000	現地講習会時の農地・農具等使用料 春3回、秋3回 計6回×5,000円/1回、会合会場使用料=20,000円
	保険料	¥ 10,000	行事保険料 農業現地講習会および現地研修会用)
	通信費	¥ 10,000	郵便料
	対象経費の合計(F)	¥ 300,000	
(その他経費)	会議費 (弁当代)	¥ 13,000	会員の昼食代 500円×26名
	通信費	¥ 10,000	会員あての郵便代、ファックス代等
	ネット使用料	¥ 68,000	
	その他経費の合計額(G) = (b③)	¥ 91,000	
合計額(H)=(F+G)		¥ 391,000	

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	マッチング	96,000 円	4 人 × 4 h × 12 回 × 500 円
	シフト体制検討会	81,000 円	9 人 × 3 h × 6 回 × 500 円
	ボランティア養成講座	40,000 円	10 人 × 4 h × 2 回 × 500 円
	ボランティア現地講習会	80,000 円	5 人 × 4 h × 8 回 × 500 円
	新規受入れ農家説明会	16,000 円	8 人 × 2 h × 2 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
			人 × h × 回 × 500 円
	合 計 (A)	313,000 円	